

第2回境港市民交流センター（仮称）管理運営計画検討委員会 議事録（要旨）

日 時：平成30年3月22日（木）午後1時30分～3時15分

場 所：境港市民会館大会議室

出席者 【委員会委員】

野田委員長、増谷委員、池淵（朗拓）委員、三好委員、松本委員、足立委員、湯越委員、山本委員、安田委員、山田委員
（欠席：池淵（美津子）副委員長、新和委員）

【アドバイザー】

田中アドバイザー、小林アドバイザー

【事務局】

松本教育長、藤川教育委員会事務局長兼教育総務課長、黒崎生涯学習課長、北野生涯学習課課長補佐、園山建築営繕課建築指導係長、浜田生涯学習課生涯学習係長、竹内生涯学習課文化体育係長、

< 次 第 >

1. 開 会

2. 議事

（1）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の基本方針（案）について

（2）市民参画の方策について

3. その他

4. 閉会

<会議録（要旨）>

◆次第1は省略

◆次第2 議事について

（1）境港市民交流センター（仮称）管理運営計画の基本方針（案）について

○事務局から説明（資料P2～4）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

<委員長>

これは案ですから、この委員会の中で揉んでいって、よりいいものにしていくということになるかと思えます。ご質問とかご意見も含めて結構ですから、自由にご意見を頂ければと思えます。

◇（委員）

図書館がこの複合施設の中で果たす役割は大変大きいと思えますが、図書館の目的というか、やっぱり生涯学習の場であるということが大きいと思えますので、キーワードの中で「学ぶ」、「生涯学習の場」であるとか「学びの場」であるとか、そういう言葉があった方がいいのかなとは思えます。それと「子育てをする場」というのはちょっと弱いのかなと思えますが、あまりにも硬いキーワードばかりで、もっと市民によく分かるようなキーワードがあるといいと思いました。

◇（委員長）

まず「生涯学習を学ぶ」というところが必要だということで、ご指摘のとおりかなと思えます。私見ですが、図書館って今、ずいぶん昔と違って様変わりしてきて、まちの中核施設というか、賑わいの拠点みたいに考えられるようになってきて、各地、新しくできる公共施設の真ん中に図書館を作ることがどんどん起こってきています。図書館は人が集まってくる機能を持っていますから、そういう意味で単に賑わいということに留まらず、本来の学習を学ぶという機能を中心にしつつ、そこに交流の拠点が生まれるという意味を持つのかなと思えます。今回、これ合築になりますから、そういう意味で学ぶ機能なども入れていきたいと思えます。今の委員のご意見は「学ぶ」ということと全体がちょっと硬いということでした。いかがでしょうか。まちづくりの観点から、図書館というのは大きなポテンシャルを持っていると思えますが、ご感想で結構ですからいかがでしょうか。

◇（委員）

まずは人が日常的に集うところ、市民が日常的に集うところということでこういう複合施設になってきたのですが、見させていただいてよく考えられているなど、別にこれをどう変えたらいいかということまで思いつかなかったのですが。

◇（委員長）

文化の関係からいかがでしょうか。

◇（委員）

文化の拠点と日常的に集まるのはいいと思いますが、基本計画の中で、「高齢者福祉」というのが挙げてあるのですが、キーワードの中でこれがどこに対するのかなと疑問に思いました。せつかく高齢者福祉というものが挙げてあるので、そういう観点で入れていただいた方がいいのではないかと思います。

◇（委員長）

恐らく、個別の政策のテーマというのをそのまま書いていけばかなりの数も増えてくる。みなさん少し抽象化度を上げていくと少しわかりにくいかもしれないけれど、この辺、先ほどの委員の意見も含めて、事務局で何かコメントがございましたらどうぞ。

⇒（事務局）

先ほども申しましたが、あくまで案であり、今、委員長さんも言われましたが、かなりの数がキーワードとしてあると思うので、委員が言われたものは確かに入れているといいのではと思うので、どんどん入れたいものやこう変えた方がいいのではないかなというものがあれば言っていただいて、中でまとめていければと思っております。

◇（委員長）

産業政策の観点からいかがでしょうか。

◇（委員）

最初に委員がおっしゃったように、私も確かにこの中で1番、日常的に集うというか交流の場になるには図書館機能が充実したものが、その機能を果たすと期待しています。実際よく整理されてるなと思いながら拝見していましたが、言われたように確かに硬い文章かなと思いました。

◇（委員長）

若手経営者ということで、委員いかがでしょうか。

◇（委員）

例えば、今、図書館の話が出ていましたが、「学び」、子どもたちが自主勉強したり、そういった場もしっかり計画していただきたいというところと、最近はデータ化というのはしているのですか。例えば新聞の記事の昔のやつが欲しいといったときがあって、境の図書館では取り出すのにすごい時間がかかると言われて、閲覧したいと

きにすぐにできるような情報管理というか、基本方針4になるかと思いますが、そういった細かいところになります。データ化というか、そういう面も考えただければと思います。

◇（委員長）

電子的に検索できるシステムを各社が整備していると思いますが、有料になるし、契約しないといけない。そうすると過去10年、20年遡って、関連記事が出てくるというサービスがあると思います。ぜひそこは検討するところだと思います。新聞を残している時代じゃないと思います。福祉の観点から委員、ございましたら。

◇（委員）

2ページの平成28年3月に策定されてしまっていますが、基本方針を見て、子どもから高齢者まで多くの人々が集い、真ん中の交流というところがあって、けどなぜここだけ「高齢者福祉」に限定してしまったのかなと思います。福祉というと幅広いので、特にここに児童が入っているわけでもないのに、高齢者は余分のような、もっと広い幅を持たした福祉の機能でいいのかなと思いました。

◇（委員長）

同じく委員はいかがですか。

◇（委員）

管理の面ではバリアフリー化は当然してきていると思いますが、あと人的な介助だとか車椅子を配置して、それに付き添いをつけるのかどうかわかりませんが、そういうソフト面でも配慮が行き渡っているような施設が望ましいのではないかと思います。「子どもから高齢者まで多様な世代の」という中に含まれているかもしれませんが、文章の中に入れての方が、バリアフリーだとか、そういったことにも配慮しているということも含めて、広い範囲の方に使っていただけるような施設としての、そういう面でも、管理運営面でもそれを生かしているということを入れてほしいなと思いました。

◇（委員長）

福祉の対象としては、高齢者、障がい者、妊婦の方とか、いろいろな方がおられます。外国人もあると思います。外国語表記も必要になってくると思うので、福祉という従来の捉え方を少し拡張して、社会プロセスというか色んなほっとくと社会から孤立しがちな人たちが来やすい、参加しやすいって工夫がかなり検討から必要だと思いますので、障がい者から高齢者、様々な階層に向けた配慮というものが、今言いました外国人にも、2つ配慮が必要だと思います。そこは少しもう1回、福祉分野で捉え直していくことが必要かなと思います。防災の観点から、委員お願いします。

◇（委員）

資料で作っている基本的な考え方のところから、これまでの基本構想から基本計画、基本設計までの考え方が含まれていて、整理されているのかなと思っています。キーワードでも防災拠点を挙げていただいております、基本方針の中で具体的に防災のことは書いてはありますが、防災については、具体的な本文の中で出てくるものだと思いますので、基本方針の案としてはこういう形がいいのかなと思っています。先ほどの外国人対応とか、そういったことがどんどん本文の中に出てくればいいのかなと思います。

◇（委員長）

キーワードにも防災拠点と入っていますが、本来、東日本大震災を見てもそうですが、学校に避難するわけですね。学校に避難拠点と書いてないですが、学校や公共的な場所に集まっていきますので、ここに書いてありますが、ここはこれでいいのだけれど、もし書いてないとしても、何かあったときは当然そういう機能を果たすべきだと思うし、果たしてきたという風に考えられると思います。

他に自由に皆さんの方からお気付きの点、質問等があればお願いします。

◇（委員）

ポイント1に「協働による管理運営」というところで、「市民、民間企業等が参画することは」とあります。協働のまちづくりからきて、非常に素晴らしいことが書いてあって、別に問題ないと思うわけですが、自治連合会会長としてここにいますので、自治会の取り組みを一生懸命になってやっていることが、協働のまちづくりです。いろいろな活動を取り組んでいます、中々前に進みづらいという現状がございます。参画するという意識の一番底辺にあるのは何かということで、みんなで話し合っているいろいろやっているのは、向こう三軒両隣の付き合いをもう1回再構築しようではないかということをご提案しております。昔は非常に繋がりがあって、それが町内に広がり、今度は市民の中に広がっていくという独特の考え方があったわけですが、基本こういうことが希薄になってきていますので、これを何としてももう1回復活させて、そこから協働のまちづくりに繋げていこうという考え方ですが、この案そのものは素晴らしいのですが、参画するというところまで市民の考え方が向くのかどうかというところが非常に頭の痛いところではないかなと思います。

◇（委員長）

地域のコミュニティ自体の再生が中々難儀だというのに、そこに企業までの参画は大分先ではないかという、リアルな話かなと思います。一通りみなさん発言をいただいたかと思えます。さらに追加的にご意見ございましたらどうぞ。

◇（委員）

今、みなさんが言われた意見を基に、キーワードや基本方針が事務局の方で変わるのでしょうか。

◇（委員長）

それはこの議論の様子によってだと思います。さっきおっしゃった「学ぶ」というキーワードが抜けているということをご指摘いただいたところはぜひ入れていただきたいということでしたら強調されて、あとは事務局が入れていくということになるかと思います。あとでもう1回振りますので、事務局の方の考え方を確認します。他にございますか。先ほど指摘された以外に何かございますか。実際に図書館をどういう使い勝手というか、いろいろご意見あると思いますが、それをまずおっしゃっていただくと参考になるかなと思いますけど。

◇（委員）

先程委員が言われたように、基本方針でなくてキーワードに、市民の方に説明されるときにキーワードはとつてもわかりやすいことなので、「学び」ということもありますし、委員が言われたように、「情報発信の場」というのもキーワードの中に入れていただいた方が、「利便性の高い」というよりかは「学び」とか「情報発信」とかを強く言って書かれた方がいいかなと思いました。

◇（委員長）

例えば「利便性の高い」の代わりに「学び」とか、あるいは「人材育成」というのは、学びというのが人材育成というのもありますよね。事務局、今の点についていかがでしょうか。

⇒（事務局）

先程来、色々ご意見をいただいていますので、キーワードとか、基本方針（案）の文言が硬いということも言われていますので、今日の意見を踏まえて、もう1回ちょっと練ったものを、次回改めて、前回こういった意見を踏まえてこういう風にしましたということで、またちょっとお示しさせていただけたらと思います。

◇（委員長）

委員よろしいでしょうか。少し丁寧にそこは作業をしましょうということです。他の委員の方もご意見ございましたらおっしゃっていただけたらと思います。

◇（委員）

この基本方針を6つ、読ませていただいて、何か活動があったりとか、何かそういったものがないと、来れないような雰囲気を感じました。もっと何もなくてもふらっ

と立ち寄れるような、それが景観なのか、何なのか、そういったものもちょっと入ってくるというのかな、市民の方も来やすいのかなと思います。

◇（委員長）

一応、キーワードの一番左上にも、「日常的に人が集う」となっていますけれど、それは結果ということですね。仕掛けのところが見えないということですよ。1つは図書館というのはそういう起点になったと思いますが、従来の図書館というイメージでやっている、静かにしなさいとか、そういう規則で規制してしまうから行きたくないということになるかもしれません。今、委員がおっしゃったことは私も本当に大事なことだと思っていて、基本的に公共施設というのは、役所が管理しますので、定時で、安全で、時間通りにしっかり鍵をかけて帰るようなことが優先されてしまう面があるので、「集う」とか「楽しい」とかそういうことがどうしても犠牲になってきた歴史があるかと思えますけれど、そこら辺を含めて、開かれた場で、本当にふらっと立ち寄れるというのが最も大事だと思います。我々の委員会は管理運営の基本的な方向を決める委員会ですので、今の委員のご意見を反映させながらやっていくべきだろうと思っております。とにかく事業をいっぱい展開して人を集めるということがありますが、事業がなくてもちょっと行ってみようかなということがとっても大事なかなと思います。他にございますでしょうか。

◇（委員）

キーワードになるかどうかわかりませんが、先程おっしゃったことはとても大切なことで、やっぱり「市民の居場所」とか「快適さ」とか「居心地良さ」とか、そういうものもキーワードになるかわからないですけども、そういう発想というものはとても大切なことだと思います。本当は境港にこの複合施設があったら住みたいと思われるようになればいいなと思います。

◇（委員長）

実際に、6つの基本方針の1番目に、「市民の誇りとなる」とありますよね。「市民の誇りとなる」ということは、境港が外に向かってもいいところだよと市民が自信を持って言えるということになると思います。そうすると行ってみたい、最終的には住んでみたいとなるかと思うので、ぜひこの市民交流センター、これはそこまで大きな目標を持っていいと思います。これだけの多額の投資を市としてしょっちゅうするわけではありませんから、これは起爆剤として、大きな市にプラスの変化を起こしていくことを考えていくことができるのではないかなと思いますので、ぜひ今おっしゃったような移住まで含めたイメージアップが、噂になっていくようなことになっていけば素敵だなと思います。ではそのためにどういうことが必要かってことを少しブレイクダウンして、具体的に、ぜひ皆さんの方から言っていただくと、役所の中

だけで考えていくと中々気が付かないことがいっぱいあると思います。そういうことを進める何か具体的なアイデアがございますでしょうか。

◇（委員）

今パッと思い浮かぶのは、ふらっと来るといのは、時期的な景観だったり、桜が、交流センターに行きながら花見をしようかだったり、子育てで遠出もちょっと難しかったりしたときに交流センターに行くと、子どもが遊べたり、触れ合えたり、またお母さん方が集えたりとか、何かそういったものが、行けばあるみたいな、そういった感じなのかなと漠然と考えています。

◇（委員長）

やっぱり現状では、郊外の大型商業施設に行っているというのが多いかと思います。そうではなくて、まちの、市役所のこの辺りに、そういう機能が色々出来てくると、行ってみようかなと思いますので、そこで色々な人の出会いがあったり、子どもたちも遊び場があったりということになるのかなと思います。他にございますでしょうか。よろしいでしょうか。またお気づきの点があれば、会の終わりまでにご発言いただければと思いますので、とりあえず最初の議題1についてはこれでけじめをつけて次に行きたいと思います。次は「市民参画の方策について」、今、すでに少し話に入っていますけれど、日常的に賑わいができて交流が起こる場所にするにはどうすればいいか、これはかなり高等な戦術がいると思いますが、そのためには管理するだけではなくて、市民の人たちが行きたいな、参加したいなと思うような仕掛け、仕組みが必要だと思うのですが、そういったことはどうやって考えていけばいいのかということについて、少し議論をしていけたらなと思います。それでは事務局の方から資料に基づいて、「市民参画の方策について」、提案いただければと思います。

（2）市民参画の方策について

○事務局から説明（資料P5）

（以下主な意見等 ◇：質問・意見等、⇒：回答内容）

◇（委員長）

事前に事務局と今日出した案の下打ち合わせをしたのですが、具体的に市民参画をどこで実現していくのかということで、結構突っ込んで話し合いをしたのですが、事務局と私の意見が一致したのは、これまでの利用者層とか利用実態を見ていくと、割と固定的な感じがするので、どう広げていくか、1つのキーワードとして、未来のヘビーユーザーは今の子どもたちだろうと考えて、高校生や中学生、小学生まで含めて、自由に、この施設でどういったことがしたいということで、ワークショップを何度かやっていったらどうかということになりました。そうするとどうしても学校とかの協

力が必要になりますから、理解がある先生たちに協力をいただきながらやっていくようになると思いますけれど、これが1つのアイデアです。ただ中高生がいろいろ言いますから、アドバイスをするような役割のファシリテーターが必要だろうと思います。それについてはぜひ皆様に、委員の方々にご協力を仰ぎたいということが、先ほどの提案の趣旨になります。なぜ中高生かという1番こういう施設から遠い存在なのかと思いました。かつその世代が長い間のユーザーになっていくわけですから、最初からここに関わってきた人たちというのは、ずっと長い間ユーザーになってくれるだろうと期待をしているところです。いかがでしょうか。

◇（事務局）

先程、ワークショップの話が出まして、ワークショップを基本計画と基本設計の時に行ったのですが、どんな感じだったかというのをちょっとご紹介させていただきます。基本計画の時に3回、8月27日、10月29日、12月15日ということで行っています。基本的に平日の夜7時半から9時くらいまでの間でやっています、市報とかホームページとかでお知らせすると、先程来、出ていました利用団体の方に、個別にご案内してやっていました。人数的には20~30人位の方が来られていて、利用団体の方が主になっていました。年代的にも60歳以上の方が大半を占めるということで、中々若い方の参加が難しかったということがございます。先ほども1回説明がありましたけれど、昨年度高校生を対象に境高と総合高校の13名の方に来ていただいて、ワークショップをやりました。中々最初は意見が出にくかったですけれど、会が進行するに連れてみなさん活発に議論されて、色々な意見をいただいたところです。主に学校の方は生徒会の生徒が中心に来ていただいて、中々我々が考えてないような意見が、若い発想というか出ていましたので、そういった意見をまた伺えたらなと思っていますし、図書館の関係では中学生の方も、この施設について非常に興味を持っておられる方もいらっしゃるということも伺っていますので、そういった方にも意見をいただく場面が必要なんじゃないかなということで、今回このような提案をさせていただいたところです。

◇（委員長）

既に実績はありますが、夜に普通に開催すると、利用団体が主になって、高齢の方が中心になっている。そこでは適切な意見はいただくのだけれど、あくまで自分たちの利用の範囲の話になってしまう、それは致し方ないのですが、そこだけだったら、別に日常の中で解決できることがいっぱいあるわけです。ただ今回、新しい施設を作りますので、こういうチャンスにゼロから作り込んでいくこともできますので、そこはやっぱりどういう風にやろうかという議論の中で、利用団体だけではないよねと、これからの未来のユーザーとしての中高生がどうなっているかという話が1つ出てきます。

◇（委員）

小中高生のワークショップは大賛成です。中学生や高校生が複合施設で過ごすことによって、勉強したり交流したりして、快適な学生生活を送ることで、県外に大人になって出たとしても、やっぱり子育ては境港で、交流センターのような施設があったからこそ、いい子育てができるんじゃないかと思って帰ってくる若者もきっと増えると思います。高校生のワークショップのときに、私も聞かせていただいたのですが、メンバーが生徒会と演劇部やブラスバンドのメンバーでして、ホールを中心に使っている生徒ばかりで、図書委員は1人もいませんでした。ですからワークショップを開催していただく際には必ず、人数制限があるのなら、図書委員会の中でみんなで話し合いをして、代表にこういう意見を持って行ってほしいとか、誰でも来てぎっくばらんに話すというのでは時間が勿体ないですから、予め、意見をきちんと考えた上で来てもらうとスムーズなワークショップができるのではないかなと思いますので、学校の方で、こういう色んな場があるということを説明とか、事前に指導していただいた上で、集まってきてもらいたいなと思います。

◇（委員長）

中高生を集めればいいというのではなくて、どうするかという話で今、提起があったわけで、これは私見ですけれどもちゃんと理解していただく先生をまずたてて、その先生と十分相談して人数を割り振るなり、分野をばらけるようにしながら、人選するなり、手を挙げさせるなり、代表者何人かにするなり、そういう風にしなければいけないかなと思います。そこはやり方のところで工夫をしながら、まずは始める。始めてあとは子どもたちの主体性に任せればいいと思います。最初だけ十分考えていけばいいのかなと思います。

◇（委員）

ワークショップだけでなく、市民全体のアンケートが必要ではないかなと思います。そうすると中々ワークショップには参加できないけれども、こんなのがあったらいいなって楽しみに書かれる方もいらっしゃると思いますし、持っていくのは郵送でもいいし、どこでも公共施設、気軽に行けるところを考えていただければいいかなと思います。それと若い子育て世代もたくさん、図書館というのは居心地が良ければ行きますので、中々アンケートに書く時間もないと言われる人にはスマホでアンケートができると、ちょっと子どもが昼寝をしている間にできるかなとか、アンケート用紙を市報だけではなくて、公民館とか、子育て支援センターとか、市民が気軽に寄れるような公共施設にどこにでもアンケート用紙とアンケートボックスを置いて、色んな市民の意見をたくさんいただくことによって、この複合施設が本当の市民参画になるんじゃないかなと思います。集計は大変なんですけれども。ワークショップだけが市民参画ではないっていうことをちょっと申し上げておきます。

◇（委員長）

そのアンケートの質問の中身はどういった機能があったら、サービスがあったらいいですか、そういうことですか。

◇（委員）

そうです。若いお母さん方にも意見を聞きたいなとか、来たくても来れないシニアの方もたくさん、足が不自由で、図書館は遠い方も居られますし、働いておられる方の意見も反映できたらいいなと思いました。

◇（委員長）

市民参画だから基本、全部の市民に意見を聞いてはどうかということで、やり方によっては無茶苦茶大変だと思います。いろいろな公共施設に置いていて、自由に回収してもらおうとやり方をすればいいのかなと思いますが、またインターネットもいろいろなやり方がありますので、検討していただければなと思いますが、その点について、事務局はいかがですか。

⇒（事務局）

今、いろいろ市報に折込ですとか、公共施設に用紙を置いたりという意見をいただきましたので、これは事務局の方で、どういったやり方がいいのか検討させていただきたいと思います。

◇（委員長）

これはPRする意味もあると思います。だからできるだけPRして、普通、市がやることに意見を言うということは考えにくいのですが、交流センターですから、まさにそういうことをやっていくための施設でもあるので、少し丁寧にやっていくことは大事だと思いますので、事務局の方で、膨大なコストや手間をかけないで、かつ色々な階層の市民に意見を聞けるような工夫をぜひしていただければといいかなと思います。インターネットだけだと若い人だけになるし、広報だけだと若い人は読まない、本当にきれいに分かれると思います。

◇（委員）

私も委員の意見、非常にいいと思うんですけど、今、隣に保健相談センターがあるのですが、毎月6ヶ月健診と1歳半健診と3ヶ月健診があります。そういった機会にお子さんを連れて、お母さんがいらっしゃるわけですから、保健相談センターの入口辺りで、アンケートを取るような台を設置して、その機会に書いていただくのがいいのではないかと私自身の案ですが思います。

◇（委員長）

保健相談センターの仕事に入れながら、アンケートをやっていくと。それは子育てに限らず、市民交流センターができるから、こういうのはご存知ですかという全般の質問なんですね。これ、やり方の1つのアイデアかなと思いますし、そういう工夫をしていかないと中々数を集められないというのも事実でしょうから。他にアイデアとかご意見ございますでしょうか。高校生のワークショップは夜やったのでしょうか。

⇒（事務局）

昼間です。

◇（委員長）

開催時間とか開催場所は学校と十分相談してやった方がいいと思います。あと中高生以外の大人も含めての意見が出ていますけれど、こういうアプローチがいいんじゃないのというのがあれば、業界ごとでも、地域ごとでもいいんですけど、実例を含めた意見をいただければと思います。先ほど向こう三軒両隣の話をしていましたが、委員はどういう風に考えていったら参加しようと思いますか。

◇（委員）

非常に難しく感じています。例えば意見集約の場を設けるとした場合、おそらく集まらないと思います。地区ではですね。そういう実態を、そこから打破していこうとしたら、どうしたらできるんだということが悩みの種です。そういう状況です。

◇（委員長）

委員いかがですか。

◇（委員）

若者、学生等はアンケートをやるのであれば、学校に配って各クラスでアンケートをとってもらいやり方もいいのかなと思います。あと市民レベルのところでは、自分たちもそうなんですが、団体ごとに事務局があると思いますので、中でアンケートを書いてもらえばいいのかなと思います。あと主婦の部分とかは、効果的な場所等を検討していくべきだと思います。地域の団体に関してはそこから家に持って帰ってもらって、家族にアンケートを書いてもらってもいいのかもしれないですけど、やり方はいろいろあるのかなと思います。

◇（委員長）

中高生の話から入ってますが、大人を含めて広く市民の皆さんの意見を反映させたいということです。他にどなたか。

◇（委員）

これまでに基本計画を策定したときには、こういった使い方があるのかということ、このような検討委員会やワークショップや市民説明会などを行って、いただいた意見を踏まえて、活用方法を色々出しているんですけども、昨年の基本設計も、いただいた意見を踏まえて出来ています。それを理解した上で色々な意見を言っていないと、後戻りになってしまってもいけないし、もう変わらない、基本設計はできてしまっている、その中で市民参画の方策を検討しているわけですけど、ある程度説明をして、理解をしていただいた上での意見でないと、なかなか反映できないかなと思います。自治連合会の担当もしているのですが、自治連合会の正副会長さん、会長さんとかにはその都度ある程度説明をさせていただいているので、自治連合会長さん方の意見というのはいいのかもしれませんが、ただ単にアンケートをするというのは難しいのかなと感じました。

◇（委員長）

私も冒頭、山本委員の提案に対してやり方が大変だと言ったのは、今のご意見のように、前提をきちんと理解してもらうには結構長大な文章が必要になってくる。そうするとある意味面倒くさいというのがあったりするかなと思うんですけど、事務局にお尋ねしますが、この交流センターができるというのはどれ位の市民が知っているって感じていますか、ざっくりでいいので。何パーセント位ですか。

⇒（事務局）

パーセントでどれ位かというのはちょっとわかりませんが、前回、委員がまだまだみなさん知らないじゃないかということ言われていたのはあります。今年度の市報で、基本設計がまとまったということで、毎月テーマを絞って広報をしてきたのですが、先ほどからも意見が出ていますけれど、市報を見られる方というのは大体高齢の方が多かったりというのがあるので、中々ちょっとどこまでの方が、ただ、今回、この施設自体が使えなくなるというところがあって、解体が30年度から始まるということになると、いやが上でも市役所に来た人は、ここ壊すけど、どうなるんだろうということ必ず何かしらそこで知られると思うんですよね。そういったこともあるんですけど、今の現段階で、事務局としてどれ位の方がこういう計画でこれ位の物ができるというのをきちっと理解されているかっていうところのパーセントまでは掴んでいないというのが現状でございます。

◇（委員長）

確かに今おっしゃるように、解体工事が始まってしまえば何やってるんだということになりますので、そこでは完成予想図だとか、解体するだろうけども市役所にはアンケート用紙も置いてあるという風な取り組みは有効かなと思います。

◇（委員）

そのアンケートですが、どんな複合施設がいいですかと聞くと設計部分まで意見が及ぶかもしれませんが、「あなたならどんな使い方をしたいですか」とアンケートされると、私だったらこうやりたいとなるんじゃないかと思います。

◇（委員長）

それしかないと思います。今からハードの設計はありませんから。あるいは管理運営に大事なことは何ですかとか。事業の提案ができますかとか。やりたいことありますかとか。そういうソフト面の話になるかと思います。他にどなたかございませんか。

◇（委員）

先程の委員さんと同じことを思っていたのですが、「あなたならどんな使い方を考えますか」とか、色んな団体とかに所属されている方でしたら、「あなたならどんな使い方をしますか」とか。参加者、何か催し物があったら私は聞きに行く、見に行く、参加しに行くという立場の聞き方と仕掛ける方、その両面からの質問で答えられるような問い方がいいと思います。

◇（委員長）

委員がおっしゃるとおりで、単に受け身的に参加するのではなくて、自分だったらこういうことをやって、仕掛けて、主催できるよという、それがまた管理運営のプラスの影響になってくると考えられるので、いくつも立ち上がってくれば、地域全体が活性化してくるのに繋がるかなと思います。まさにそういうことを意識して、仕込んでいくことが大事なことになるのかなと思います。他にございますか。

◇（委員）

現在、詳細な設計を行っているところですので、それに対してどうするかという意見がですがね、設計の方に反映されていかないといけないと思います。設計に関連のあるようなご意見が出てくればいいかなと思っています。あとから、設計が終わってから意見をいただいても間に合わないところがあって、そういった観点からアンケートをすればと思います。

◇（委員長）

これは非常にデリケートな、難しいところかと思いますが、これは単に個人見解ですが、これまでの施設の作り方って、目的的に設計してきました。ところが作ってオープンした後に色んな要望とか出てきて、これ壁がなかった方が良かったとか、広すぎる狭すぎる、天井高すぎる低すぎる、明るい暗い、いっぱいあるわけです。だから基本はあんまり設計しないことだと個人的には思っている。言わば広い場所が

あってその都度利用運用して、色々間仕切りが可變的に出来たり、あるいは照明はキヤットワークになっていて動かせるとか、だからそれは今からは難しいかもしれないけれど、今使い勝手がいいって評価されている施設はそういう要素が入っている。かつて縦割りで、福祉の施設とか、教育、図書館とかをやっていたのですが、それが今どんどん融合して行って、色々な使い方ができるようになっている。それは少子化とか人口減少とか財政が厳しくなっていく中で、求められていることだと思えますけれど、そういう意味で名称も「市民交流センター」ですから、交流が果たせるような場所、その交流の中身もやりたいこともみんなそれぞれ違うと思いますので、あるいは最大公約数的なところになると思います。今のところ特段、図書館とホールの設計で、おそらく設計変更が必要かというところは、それは大きいところじゃなくて、細かいところになるかと思いますが、そこらへんちょっと中々そこを時系列でやっていくのも難しいかなと思うんですけど、基本的にはそうやって今のところは使う側が使い勝手がいいように考えていくことが時流なのかなと思っています。この検討委員会では、ハードのことは議論しないということでやっていくしかないかなと思っているんですけど、しかしそうは言っても委員の発言は、必要なことがあって間に合って設計が大きく増えないのであればということもありますが、我々の議論も始まったばかりですので、そこはちょっとスケジュール的にどうかと思うんですが、もしそこは接点が出来てきて、ここはこうしたらいいよねということになれば、そういった発言もあるかもしれません。とりあえずはここに与えられた義務としてはソフトの部分を、管理運営のあり方について集中的に議論していきます。他にございませんでしょうか。それでは議論の整理をしますと、中高生、小学生も含めるかもしれませんが、子どもたち、児童生徒のワークショップをやっていこうということについては、異論はなかったと思います。ただしやり方については十分、きめ細かく、考えてやっていかないと、やりっぱなしになったり、特定の団体だけが大きい声になってしまうということがあるので、そのやり方はちゃんと工夫しようということや、それからワークショップだけでいいのかということがありまして、市民全体にアンケートを求めるべきではないかと、これについては委員からご指摘がありましたけれど、今決まっている前提をきちんと伝えることが大事なので、その上でどういうやり方があるのかということや、ぜひ事務局の方でも検討していただきたいということになると思います。それから設計変更の件に関しては、必要が出てくればなるかもしれませんが、基本的にはソフトの話で行こうということと、これも大事だったと思いますけれど、受け身で参加するだけではなくて、自らプログラムを提案したり、主催をするという立場の人達を増やしていきたい。それは施設の印象とかイメージとか評価が高まっていくということになると思いますので、オープンする前から仕掛けとか仕込んでいくということが大事になるかと思っています。そういうことを多面的にやっていければいいのかなと思います。後段の議論で何か補足的にご意見ありましたらおっしゃってください。今日出された意見を事務局の方でも受け止めて、修正していくと思いますので、

次回またこういう風に修正しましたと提案されると思います。またぜひみなさん、今日の議論を踏まえて、引き続きより意見を発表するように考えていただければと思います。もし無ければ、この議題については以上とします。よろしいでしょうか。

◇（委員）

今日は討議をして、非常に活発的な意見があったんですが、基本方針の6のところに「自衛隊との連携強化」とありますが、今日は自衛隊のことについては一言もなかったですね。現実、担当される方が実際居られないのですが、このあたり、私も友人からこの辺がちよっと逆に非常に大切なことではないかということであると、自衛隊との連携は実際誰がどうやってされるのか、そのあたりはどうでしょうか。

◇（委員長）

では事務局の方でここについてはご説明していただけますでしょうか。

⇒（事務局）

元々、防災と自衛隊との交流が、この施設を作るにあたっての大きい目的になっております。それで今回、基本方針で連携強化を挙げさせていただいております。実際に自衛隊や防衛の関係は、市の都市整備課港湾空港対策室が行っているのと、自治防災課が少し絡んでいるところがありますけれども、実際に施設が出来て自衛隊との交流で運営するにあたっては、役所の中の横の繋がりと言いますか、連携しながら、自衛隊と連携していかないといけない。生涯学習課だけで自衛隊と直に云々ということには中々ならないので、関係部署等とも連携を取りながら、自衛隊も美保基地や米子の駐屯地とか、色んな施設や団体がありますので、そういったところと連携してこの施設全体を自衛隊との交流というのが1つの売りと言いますか、ある程度出していかないといけないと思いますので、そこはこの施設の胆になってくると思うので、そこはやっぱり外せないということで、基本方針で文言としてきっちり挙げさせていただいているということです。

◇（委員長）

何か事業面でも定例的な自衛隊との取組、事業とかを予定されているのでしょうか。

⇒（事務局）

ホールが使えていた時には自衛隊のふれ合いコンサートを毎年必ず行っていました。今は文化ホールで行っています。あとは自衛隊の入隊予定者の説明会や激励会を定期的にやっています。基本計画で施設を自衛隊との交流でどういう風に使うというのを載せているんですけど、自衛隊の方に講演していただいたりとか、例えば災害派遣で色々活動された方とか、海外で色々された方に話をしていただいたりとか、あと自衛隊でこういった活動をしているというのを展示してみなさんに見ていただいて、広く自衛隊の活動を理解していただくとか、色々な活用の方策を基本計画の中で定めて

いますけど、実際に施設が出来たときに全部できるのかというところはまだ、これからだと思っています。

◇（委員長）

展示とかは常設になるのですか。

⇒（事務局）

おそらく常設になると思います。

◇（委員）

自衛隊員の方だけではなくて、自衛隊員の家族の方からも意見を聞いたらいいのではないかなと思いました。自衛隊の方は、日本中、転勤していらっしゃるんで、転勤族というのは、その地に行くともまず行くのは図書館だそうです。図書館に行って、自分が住むところの文化レベルとか、子育てしながら図書館をどう使うとか、情報発信するにはどの程度の図書館なのか、とチェックをされる方が転勤族には多いと聞きました。やっぱり余所と比べて、ずっとここに住んできた市民にとっては比べることがないところで、あーしたい、こうしたいというのを限度があるんじゃないかと思っています。比べるからこそ自分の今住んでいるまちが見えてくるっていうことが多いんですよ。転勤の多い自衛隊の家族の方から意見を聞くと、多分、あそこに住んでいた複合施設はとても便利が良かったからこういうところを取り入れてほしいとか、そういう貴重な意見が出てくるんじゃないかなと思ひまして、家族の方から意見を聞くのもいいんじゃないかなとは思ったんですけど、ちょっとやりすぎかなと、ちょっとそこら辺がわからなくて、自衛隊の家族の方だけに聞くというのは何かかなと思ひて、意見を言うのをやめたんですが、自衛隊との交流はどうかというところで、やっぱり自衛隊員だけではなくて、その家族の意見も大切じゃないかなと思っています。

◇（委員長）

はい、ありがとうございました。外と比較するというのは重要なことかと思ひますね。ただおっしゃるように自衛隊、家族だけが特別扱いというのがどうかと思ひますが、それはちょっと事務局の方と調整しながら、今、中高生の話を中心にやりましたけれど、それ以外でいっぱい出ていますので、それを少し材料を集めて、こういうことをやろうよと次回辺りにちょっとご提供が出来ればいいのかなと思ひます。他にございますか。よろしいでしょうか。それでは市民参画の方策については以上として、その他事務局の方からご説明をお願いします。

◆次第3 その他について

・第3回の検討委員会について（視察先について）

○事務局から説明

※全体を総括してアドバイザーから一言コメント

◇（アドバイザー）

非常に活発な意見が溢れていて、境港に新しい図書館ができるのは非常に楽しみだなと思って聞かせていただいております。中で思いましたことを少しお話させていただきます。若者に焦点を当てて、若者が集まる、集う図書館を作りたいということで、そこから意見徴収をするという話が溢れておりましたが、最近作られている図書館というのは非常に若者がたくさん集まっている図書館が多くございます。塩尻とか利府市、安城市、瀬戸内市とかですね、若者で溢れてます。

◇（委員長）

そこはどうして若者が。

◇（アドバイザー）

基本的にはすごくお洒落な空間ですし、座って喋れる、喋っても怒られない。構造上、どういう具合に喋ってもいい空間と静かな空間とどうやって両立するかっていうことは、テクニックのことでやっていかないといけないことだと思ってるんですけど、基本的には若者がお洒落で座って喋れる怒られない、そういう空間があると非常に若者が集う環境になるのかなと思いましたが、さらにメッセージとして、ここは君たちが居ていい場所なんだよっていう、そういう作り方を敢えてしております。特に岐阜市はここは子ども優先の席ですので、大人はご遠慮くださいという空間をはっきり作って、そこで子どもたちが自由に勉強しているという空間を敢えて作ったりもしています。そのあたりを君たちだったらどういう仕掛けがあるといいのかな、行ってみたいとまず思うのかなというような質問がそのアンケートの中にあると、自分たちの想いを書きやすいのかなと思ったりもします。色々な意見が出ると思うのですが、可能なもの、可能でないものを取捨選別しながら、そこを見ていけると興味を持っていただける施設になるのかなと思います。あともう1つですね、やはり今どきの図書館が非常に進化しているものですから、我々も中々新しい図書館のことについて付いていけない、かなり勉強しないといけないというような状況になっておりますけれど、市民の皆さんも新しい図書館ってというのがこういう機能を持っていたり、あるいはこういう空間になっているということについては、知っていただく機会があった方がいいだろうなと思います。先ほど5月に新しい施設の見学を、ということがありましたが、やっぱり大前提だと思います。生で見て、子どもたちが集っている、あるいは高齢者も集っている、多くの人が使っているような施設の状況を見られた時に、それが境港だとどうしたら実現できるのかなという、我々自身もイメージを広げて、こう見ていくということが必要だと思っております。出来れば順調、時間の軸がどうずれていくのか判りませんが、見学の結果が上手く意見の中に反映されるような形のスケジュールになればいいかなと思っています。

◇（委員長）

本当にそうなんです。私も学生を指導してましたけれど、学生の卒論で本のある空間というのは、立て続けに去年も今年もいるんですね。いろいろ話をしてみると、図書館に限らずブックカフェとかですね、今、ゲストハウスのあたりに本が並んでいたりするんですね。本があることが何か空間としておしゃれだとか居心地がいいとなってくる。今アドバイザーからありましたが、市民の皆さんも大方大概そうだと思うんですね。図書館というと静粛に、黙って本を読まないといけない。でも全然違うんですね。だからそうすると若者は集まってきて、溜まり場になってくる。ですから図書館というのは、そういう機能のまずセンターになるんだらうなと思っていて、ぜひそこは今、みなさんからありましたように、成功しているところを参考にしていきたいと思います。それではアドバイザーお願いします。

◇（アドバイザー）

私たちの財団も事業をやっています、情報というのをみなさんにどう伝えるかというところで、苦勞しているところがあったんですけど、1つの参考になるかどうかですけど、スマホを使うというご意見がありました、今結構そういうツールが主流な時代なのかなと思います。そういった媒体を上手く活用できる、例えば、スマホで何かを読み取って、そのサイトに行けば境港の文化施設、交流センターが、今どういう風に進んでいくとか、どうなっていくのかというのがもう少し見れるような専用サイトがあったりとか、そこにすぐリンクできるっていうような、若い世代の方もですし、意外とお母さん方とかも結構スマホを使っているんですね。ですので、そういうものも1つの手段かなと思ひまして、私たちの財団としても、チケット販売なんかも登録すればメールが返ってきて情報が提供できるようなやり方しております。

◇（委員長）

今若い人はパソコンを打たないですよ。ローマ字入力もできなくなりつつあります。全部スマホでやっています。それから7月でしたっけ、水木しげるロードがリニューアルするのは、観光客向けにスマホを使って、色々なことが始まるんだらうと思うんですが、その時に図書館に妖怪のコーナーがあるよときちっと入れて、観光客が図書館に立ち寄りみたいなことを仕掛けていくということはかなり有効かなと思います。海外では妖怪っていうのはものすごい人気コンテンツなんですね。これは水木さんに限らず江戸時代から妖怪の伝統がありますので、それは非常にインバウンド観光にも有効かなと思いますし、ぜひそれも戦略的に考えていけたら、楽しいし、いいだらうと思います。スマホっていうのは、おっしゃる通りで、色んな活用の可能性があるかなと思います。ありがとうございます。今の意見に補足がございましたら、どうぞ。よろしいでしょうか。

◇（委員）

しっかりネット環境を、例えば無料でWi-Fiが使える環境であると来るきっかけになりやすいと思います。カフェとかでお客さんがいるのって、そういった利便性の部分もあるので、1つキーワードとして考えていただきたいのと、さっき出ていた広報の部分、こういう複合施設なんだよと告知ができる、常日頃から。そうするとどういう施設なのかが分かって、参加者も利用しやすいのかなと思いますので、お願いします。

◇（委員長）

ありがとうございます。アドバイザー、若者が集う新しい図書館っていうのはWi-Fiはどうなっているのでしょうか。

◇（アドバイザー）

基本的にはもちろん使えるようになっています。

◇（委員長）

Wi-Fiが使えるっていうのは若者とか外国人にとってもマストのアイテムだと思います。ではよろしいでしょうか。それでは事務局の方であと何かございますか。（なし）それでは第2回の管理運営計画検討委員会はこれで閉じたいと思います。ぜひ今日の議論を踏まえて、引き続き委員の皆さんの方からもアイデアを練っていただいて、これまでにない革新的なアイデアを出していただいて、いい運営といい施設にしていきたいなと思います。よろしく願いいたします。今日はどうもありがとうございました。